

「いわきの郷土食をつくる会」の活動を通じて

いわき市内には12の生活研究グループがあります。パワフルな母ちゃんたちの集まりです。

「スローフードに帰ろう」の本をまとめたのをきっかけに、もう一度「いわきのスローフード」を見直し、手作りの味、本物の味を継承、さらには農村女性の「技術と情報」を提供し、食の大切さ、安全性を多くの方々に認識してもらえるような運動の主役に、農村女性になれるように活動したいと、平成14年度から「いわきの郷土食をつくる会」をはじめ、地産地消の牽引役を担ってきました。



今年度は4回、市内各地で開催し、地元の旬の食材を使いながら、田植えを終えたお祝いの「さなぶり」にちなんで「かしわ餅」にするなど、伝統食をテーマにするグループや新しい食材「まこもたけ」を紹介したグループなど、各グループ趣向を凝らし、開催しました。

参加者からは「昔の味で懐かしく感じた」、「家族につくってあげたい」、「スローフードをもっと知りたい」、などの感想が寄せられ、グループ員にとってやりがいのある活動となっています。また、「郷土食をつくる会」での経験をいかして、グループ員が農家レストランや農業体験、加工活動に取り組む、学校や公民館での講師を務めるなど、新たに活動の幅が広がっています。

遊休農地の活用で肉用牛の増頭と飼料増産を！

いわき農林事務所では、中山間地における遊休農地解消のため、田人町旅人に簡易放牧の展示ほ（耕作放棄地 約70a

標高600m

和牛繁殖2頭放牧

電気牧柵）を設置し、年間を通じて農家参加型で遊休農地の活用による放牧地整備を実体験してもらいました。



放牧前の平成20年6月12日（木）に、現地研修会を開催し電気牧柵の設置ポイントや草地化等について学習しました。

放牧期間は、同7月2日（水）から8月8日（金）までの38日間。事故やトラブルも無く、牛の健康状態も良好に放牧を終えることができました。展示ほに協力していただいた農家の方は「放牧して管理が楽になった。飼料高騰のなか飼料費が節減できた。増頭も検討している。」との意欲的な話が聞かれました。

放牧期間は、同7月2日（水）から8月8日（金）までの38日間。事故やトラブルも無く、牛の健康状態も良好に放牧を終えることができました。展示ほに協力していただいた農家の方は「放牧して管理が楽になった。飼料高騰のなか飼料費が節減できた。増頭も検討している。」との意欲的な話が聞かれました。

経営セミナー開催

～確かな経営感覚で地域農業の担い手に～

確かな経営感覚を身につけた地域農業の担い手になっていただくため、認定農業者や集落営農組織等の方々を対象に、経営セミナーを開催しました。

平成20年12月4日（木）から、平成21年1月8日（木）まで、4回にわたり開催。

認定農業者や女性農業者、青年農業者、農業生産法人の役員など、のべ68名が参加しました。

内容は、「複式簿記の基礎」からはじまり、「資金繰り」「キャッシュフロー分析」「経営分析」



の講義にとどまらず、疑似体験演習なども取り入れた、わかりやすいものでした。

参加者からは、「ぜひ複式簿記をはじめたい」「資金繰りの大事さがよくわかった」との意見が聞かれました。

集落営農組織等へのブロッコリー導入に向けた現地検討会の開催

平成20年12月5日（金）、ブロッコリーのグリーンベルト実証ほ（草野地区）において集落営農組織等へのブロッコリー導入に向けた現地検討会を開催しました。

検討会には集落営農組織、関係機関等から17名の参加があり、実証ほにおける大規模栽培に対応した機械化体系の紹介、畝立てや薬剤防除における大豆栽培との機械の共用についての提案を行いました。

集落営農組織で新規導入した方々からは、「面積拡大には機械導入も検討しなければ。」「次作は収穫台車を活用して作業をしたい。」などの積極的な御意見も聞かされました。

また、収穫したブロッコリーの調整作業についても見学していただくことで、栽培だけでなく、どのような形で出荷されるかがわかり、今後の導入に向けて具体的なイメージづくりに役立ったようです。



農業ふれあい講座で収穫感謝祭を開催しました

いわき農業青年クラブ連絡協議会では、野菜づくりをとおして農業者への関心と理解を深めていただくため、いわき市内在住の農業に興味のある一般消費者の方々を対象として農業ふれあい講座・市民農園を開催しております。

平成20年12月6日（土）、夏井公民館でふれあい講座農園で収



穫した野菜を使用した収穫感謝祭を開催しました。農業ふれあい講座としての開催は、開園式、栽培指導会、品評会について本年度最後の催しとなりました。

農園で収穫した野菜は農業青年クラブ員が驚くほどの立派なものが数多くありました。また、参加者の方々と農業青年クラブ員が交流を深めることが出来たことは大きな成果となりました。



定年帰農（就農）希望者研修会を開催しました

いわき地方中山間地域園芸産地帰農者等支援事業の一環として、平成20年12月7日（日）に「定年帰農（就農）希望者研修会」を、いわき市平谷川瀬のグリーンプラザいわきで開催しました。

研修会に先立って11月に実施した「園芸産地見学会」では、ネギ、ブロッコリー、イチゴの栽培ほ場を見学しましたが、今回の研修会は、いわき市内の園芸産地の概要、四倉町でネギと水稻を栽培している鈴木稔さん洋子さんご夫妻による定年帰農の実践事例報告、更には財団法人福島県農業振興公社青年農業者等育成センターと、いわき農林事務所の職員による「個別相談会」も実施しました。

11名の参加があり、参加者からの質問に対し、事例報告者などから適切なアドバイスがあり、大いに参考になったようでした。

また、研修会終了後の個別相談会では、さらに、就農に向けての具体的な内容について、各参加者は真剣に相談していました。



労働安全衛生教育講習会が開催されました

平成20年12月7日（日）、NPO法人いわきの森に親しむ会の主催による「平成20年度労働安全衛生教育講習会」がいわき市常磐藤原町の湯ノ岳山荘で開催され、11名が受講しました。

日ごろ、親しむ会の会員は、森林整備のためにチェーンソー・刈払機を使用していますが、この講習会は、それをより安全に使用する上で



の技術や知識の習得を目的に、全7日間の日程で開催されます。

今回は、チェーンソー・刈払機に関する知識と関係法令についての講義で、いわき農林事務所の林業普及指導員2名が講師を担当しました。



山間部の急峻な地形等により、林業の作業条件は大変厳しく、チェーンソーを使用した伐倒作業や、刈払機による下刈作業での労働災害が多く発生しています。講習会の開催により、会員の労働安全の意識向上と、労働災害の防止につながることを期待しています。

「食の楽校」で収穫祭を開催しました

平成20年12月9日(火)、いわき市立渡辺小学校の5年生が、約半年間を通して栽培を行ってきた、もち米「まんげつ」の収穫に感謝して収穫祭を開催しました。

はじめに開会式を行った後、さっそく“もちつき”を行いました。しめ縄を張った臼に炊きあがったばかりのもち米を入れ、みんなで交代しながらつきました。初めて餅をつく児童などは、思ったように杵を振り下ろせず手間取っていましたが、地元の方が代わりに頑張ってくれ、その雄姿に児童達からは歓声が上がっていました。つき終わった餅はすぐに丸め、後日、お世話になった方々へ配られました。



その後、地元のおかあさん達や保護者の方が調理してくれた、地産地消にこだわった「お雑煮」「きなこ餅」「あんころ餅」「納豆餅」「大根餅」で、稲作体験に協力くださった地元の方々や渡辺小学校の教職員、児童など全員に“もちふるまい”を行いました。つきたての餅はとてもおいしかったため、お腹は大丈夫かと心配になるほど何度もおかわりする児童もみられました。

今回の収穫祭が稲作体験の最後の活動であったため、収穫祭終了後に“修了式”を併せて行いました。児童一人ひとりに修了証書が手渡された後、お手伝いくださった地元の方々へ児童たちから感謝の言葉とともに手作りの感謝状が贈られました。

渡辺小学校において実施してきた今年度の食の楽校も今回の活動で終了となりました。来年度も引き続き学校と地域が協力して食育活動を実施していくとのことであり、『食育』が地域に根ざしたものになることを期待しています。

「家族経営協定＝健全な経営の証＋家族間のラブレター＋…」をつくりましょう

平成20年12月15日(月)、「いわき地方農山漁村男女共同参画推進会議」を開催しました。推進検討会では、農業者代表の方をはじめ、農業関係者が一同に会し、家族経営協定の推進について意識統一を図りました。

また、講演会では、「家族それぞれが力を最大限発揮し、いきいきと働ける環境づくりのために～家族経営協定の役割と課題～」と題し、福島大学岩崎由美子先生に事例を交えながら、わかりやすくお話いただきました。

「家族経営協定」は、家族全員で話し合っ、家族全員で経営の将来を考え、家族全員が経営の意思決定に参加し、家族全員が胸をはって働ける環境をつくることです。

経営学には「従業員満足度が顧客満足度につながる」という考え方があり、これを農業経営にあてはめてみると「働く家族の満足度が高まれば、お客様へよりよい商品・サービスが提供できる」。つまり、家族経営協定には、「家族経営協定の締結によって家族の働きやすい環境づくりをし、家族一人ひとりがいきいきといい商品づくりをしています」という「経営な健全の証」となる役割もあります。

今、コミュニケーション不足から家族関係が揺らいでいます。「家族を励まし合い、いたわり合う」手段である家族経営協定は「家族間のラブレター」。「家族を助け合い、高め合う」先進的な家族関係を農村地域や生産者グループから発信していきましょう。





平成20年度第1回いわき地域 有機農産物等普及推進会議

本県で開発・実証した技術を導入し、地域で発生する有機性資源を利活用したふくしま型有機栽培等の産地づくり推進のため、平成20年12月17日（水）にいわき地域有機農産物等普及推進会議を山田公民館で開催しました。

ふくしま型有機栽培水稲実証ほでは、露地プール育苗、畦波板の設置などの技術を組み合わせることにより、収量は年々増加し本年は8俵／



10 aとなった報告がありました。

また、出席者からは、有機農産物等の販売にあたっての取り組み方法などについて具体的な話題提供がありました。

その後、トマト特別栽培とネギ有機栽培の現地視察を実施しました。

トマトの実証ほでは、点滴灌水チューブによる施肥や太陽熱土壌消毒などを利用した特別裁

培で高品質なトマトを生産できることの説明がありました。



また、ネギの実証ほでは、地域の有機性資材を有効活用した有機栽培で安定的な生育が確保できることの説明がありました。



改めて、技術の成果を確認するとともに、環境に配慮した安全な農産物を消費者に届けることの重要性について再認識されました。

いわき農林事務所からのお知らせ

☆「就業・雇用相談窓口」のお知らせ

県では、現下の厳しい雇用情勢に対応するため、地域の求職者等に対して、農林業への就業相談並びに雇用対策に関する情報を的確に提供し、農林業における雇用の創出等と担い手の確保を推進するため、「就業・雇用相談窓口」を設置しました。

詳細は、下記窓口へお問い合わせください。

【農業関係】

いわき農林事務所農業振興普及部
電話 (0246) 24-6161 FAX (0246) 24-6196

【林業関係】

いわき農林事務所森林林業部
電話 (0246) 24-6192 FAX (0246) 24-6179



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 いわき市平字梅本15番地 Tel (0246) 24-6197 Fax (0246) 24-6196

URL <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E-Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp



iwaki.nourin@pref.fukushima.jp